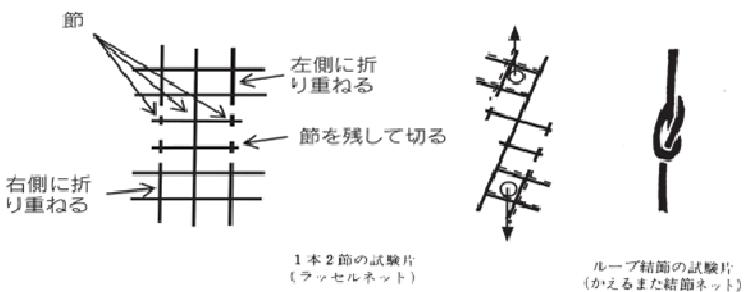


別表7 安全ネットの性能

1 引張試験を行う場合の試験室の状態は、 $20 \pm 2^{\circ}\text{C}$ の温度及び $65 \pm 0.5\%$ の湿度とすること。

ただし、試験室が上記の状態に保たれない場合は、試験時の温度及び湿度を付記すること。

2 安全ネット、網糸、縁綱及び吊綱の強度は、次の表の左欄に掲げる試験方法による試験を行った場合に、それぞれ同表の右欄に掲げる強度を有するものであること。

試験方法	強度
<p>(網糸の引張試験)</p> <p>安全ネットの網糸の引張強度試験は、次によるものとし、引張速度は$15 \text{ cm/min} \sim 30 \text{ cm/min}$とする。</p> <p>(1) 試験用系(片)によるもの以外の網糸の試験片は、ネットに使用されている網地から切り取る。</p> <p>(2) 無結節ネットの網糸の引張強度試験にあっては、網糸の両端を網糸の径の5倍以上の外径のドラムに巻き付けて行うものとし、ドラムの中心間距離は20 cmを標準とする。</p> <p>(3) ラッセルネットの網糸の引張強度試験にあっては、次の図に示す1本2節の状態で行う。</p> <p>(4) かえるまた結節ネットの網糸の引張強度試験にあっては、網糸のよりがほどけない状態で次の図に示す結び目(ループ結節)を試験片の中心に設けて行うものとし、試験片の有効長さは20 cmを標準とする。</p>  <p>1本2節の試験片 (ラッセルネット)</p> <p>ループ結節の試験片 (かえるまた結節ネット)</p> <p>網糸の引張試験方法の図</p>	網糸の引張強度は、(別表)によること。

(別表) 安全ネットの網糸の新品時における引張強度は、次の表の値とする。

新品時における網糸の引張強度

単位 (kN)

網目の大きさ(cm)	無結節網地		ラッセル網地		かえるまた網地	
	平均値	最小値	平均値	最小値	平均値	最小値
10	2.36 以上	2.16 以上	2.06 以上	1.87 以上	1.96 以上	1.77 以上
5	—	—	1.13 以上	1.03 以上	1.08 以上	0.98 以上
3.0	—	—	0.74 以上	0.69 以上	—	—
1.5	—	—	0.40 以上	0.35 以上	—	—

(注) 網目の大きさが 5 cm を超え 10 cm 未満のもの、3 cm を超え 5 cm 未満のもの及び 1.5 cm を超え 3 cm 未満のものにあっては、それぞれの値により求めた直線補間値以上とする。

(縁綱及び吊綱の引張強度試験)

安全ネットの縁綱及び吊綱の引張強度試験は、引張速度を 15 cm/min～30 cm/min で行うものとする。試験片は、ネットに使用されているロープから切り取るものとする。

引張強度の最大値が 14.7kN 以上であること。

3 安全ネットの落すいによる性能試験

安全ネットの落すいによる性能は、次の表の左欄に掲げる試験方法による試験を行った場合に、同表の右欄に掲げる強度を有するものであること。

試験方法	強度
<p>(安全ネットの落すいによる性能試験)</p> <p>安全ネットの落すいによる性能試験の方法は、次によるものとする。</p> <p>安全ネットを四隅及び各辺の中間部で支持する 8 点支持の状態で落すい試験設備のつり具に取り付け、安全ネットの中央部に重すい（注 1）を所定の高さ（注 2）から落下させること。</p> <p>注 1：落すい試験に用いる重すいは、90kg であって、かつ、形状が次の図に示すような円筒状のもので、その軸心上の重心付近に加速度計を取り付けること。</p> <p>注 2：所定の高さとは、安全ネットの支持点より上方 $0.75L$ の位置とする。ただし、L は安全ネットの短辺長（m）とする。</p>	<p>1 減速度が 147m/s^2 以下であること。</p> <p>2 網地に著しい損傷及び貫通がないこと。</p>